

歴史に思いをはせ～442年前そして322年後へ～

1月8日 午後8時になろうとした頃、皆既月食が最大を迎えました。太陽－地球－月が一直線上に並び、光の屈折の関係で赤銅色に見えました。

その後、天王星が月に隠れていく惑星食も観察することができ、同様の天体ショーは今から442年前の安土桃山時代であったという記録が残されています。

当時は、織田信長が安土城を築いたり、イギリス船が平戸にやってきましたりするなど、歴史が大きく動いていた時代です。その時代の人たち、そして織田信長や羽柴秀吉もこの天体ショーを見ていたのかもしれませんが。

今から10年前の5月、日本全国で129年ぶりに金環日食を見ることができました。自動車通勤する人たちが、日食に気を取られて事故を起こしてはいけないという心配から、全国の学校では、登校時間を遅らせたり、登校時間を早めて全校児童生徒で観測会を行ったりするなどの対応がとられました。現在の中学生が3歳から5歳の頃です。祖父江中学校の先生たちの大半は、まだ先生になっていなかったり中学生だったりした先生もいます。今でも家の中を探してみると、遮光板や遮光めがねが出てくるかもしれません。ちょっとした経済効果もあったようです。



蒼白の 月かけゆく下の オリオン座

皆既月食と惑星食（次は土星食となるそうです）が、日本で同時に見られるのは、322年後です。その時は、今の世の中を歴史上、どのように伝えられているのだろうか。また、いったい何時代と呼ばれているのだろうか。さらに、地球がどのような星に、あるいは日本がどのような国になっているのだろうか、とうてい想像が及びません。ひょっとしたら、月の上から人類が「地球食」や「地球の満ち欠け」を観察している人がいてもおかしくはないほど、科学技術が発達しているかもしれません。



【欠け始め】



【食の最大】



【見え始め】

何十年・何百年経っても、歴史に思いをはせながら、澄みきった空に煌めく星や世の中を明るく照らす月を眺めている子供たちの姿が、あちらこちらに見られる世の中であり続けてほしいものです。